

令和7年度 幼児教育研修（年齢別担任研修5歳児・第2回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

～子どもとつくる5歳児の遊び～

日時：令和7年9月10日（水）15:00～17:00

会場：足立区役所 庁舎ホール

講師：東京都立大学 教授 田中 浩司 氏



事例からの学び ～グループワーク～

事例①廊下でのやり取り

廊下に折り紙遊びコーナーがある。紙飛行機を折り、ぶら下がっているリングに通して遊んでいる。

紙飛行機を飛ばした時に、保育室の入り口の上の掲示に引っかかってしまった時の出来事。
男児らが試行錯誤しながら紙飛行機を落とそうとしているところへMが興味をもち、やってみた。

広告紙を丸めたボールを投げたら、紙飛行機に命中し紙飛行機が落ちた。

M:「やばい!」

その言葉をそばで聞いていたKは

K:「やばいじゃない!」

「やばいっていうのは男だからやめたほうがいいよ!」

と、Mに知らせているが、Kの声が入らないくらい、慌てた様子を見させている。



やばい!
取れちゃった!

思いの違いが生じた



やばいじゃない!
やばいっていうのは男だから
やめた方がいいよ!
(言葉の使い方が気になる)

田中先生より

「やばい」と言ったMの本当の思いは何だろうか・・・。



Mは、仲間が試行錯誤しながら取ろうとしていたことを知っている。その遊びを壊してしまったことに対して「困った」という思いだったのではないだろうか。思いを表出していることは大切にしたい。保育者が「どういう気持ちだったの?」と、自分の思いを言語化できるよう問いかけてみることも大事である。そういった関わり方の積み重ねが自分の気持ちを表現することにもつながっていく。

～グループワーク～

子どもの言葉について考えてみよう

<どうやって知った?>

- ・兄弟関係から知り、いろんな言葉を使ってみたい(憧れる)
- ・YouTubeなど

<聞いた時はどうしてる?>

- ・否定せずに「どういう意味?」と聞き返す。
- ・「やばい」の背景にある気持ちを探る。
- ・言われた時の気持ちを伝える。
- ・伝え方を一緒に考えていく。



<田中先生より講評>

- ・「どんな気持ちなのか、教えてほしい」など丁寧に引き出していくことが大事である。
- ・普段から、どんな体験をしているのか、どんな姿があるのか、その子の理解があることが重要である。
- ・大人側の子どもの理解が必須。どうしてその言葉を使ったのか受け止めることも大事である。

事例② 行事に向けた取り組み・話し合い・製作

行事に向けた話し合いを、サークルタイムで話し合っていく。昨年度の様子からイメージができていたこともあり、話し合いも進んだ。

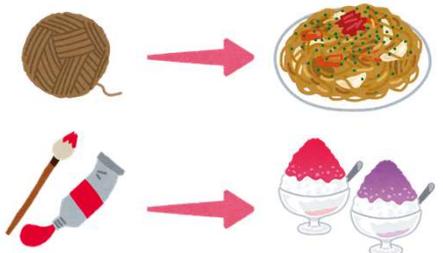
行事に向けて、かき氷・焼きそば作りなど、好きなものを作る。

モグラたたき

紙飛行機を投げて紙コップに当てるゲーム

お店屋さん

クレーンゲーム



事例② かつばおやじの絵本から

『でた!かつばおやじ』の絵本が大好き。繰り返し読み聞かせを楽しんでいる。



大好きな絵本の世界を、夏ごろから遊びに取り入れた。天袋に仕掛けた「かつばおやじからの手紙」に気付いた。手紙が届いたことで、子どもたちの中では「かつばおやじ」が本当にいるという確証につながった。

きのう おまへたちは
おれさまのほんを
みていたな
しってるぞ
あめがふらない
くるしいよー
たすけてくれ
かつばおやじより



ほんとにかつばおやじがいた



手紙を読んで、かつばおやじが困っていることを知り、どうしたら良いのか、サークルタイムで話し合うことになった。



こわいな…

たすけてあげようよ



水置いておこう

おにぎりとか作って
おけばいいんじゃない?

人間ってやさしいなって
心の中でありがとうって
思っているんじゃない?

田中先生より



- ・大人が仕掛けていくことで、絵本の世界に引き込み、楽しんでいる。(子どもの遊びを広げていく上で必要になることもある) みんなで同じ経験をしていることで、一人一人の発語も増える。
- ・子どもの遊びには、大人がどこまで手を出すか、口を出すか迷いも生じる。子どもの遊びの流れを読み取り、どこで「口をつぐめるか」が大切になる。また、職員間の連携、情報共有も重要である。
- ・子どもたちは、物語の内容を参考にしている。本の事実と照合する姿が見られるところが5歳児らしい。こうした姿は「知的好奇心」の現れとして、捉えることができる。
- ・かつばおやじのイメージは、それぞれ違い、怖いイメージを持つ子もいた。

～グループワーク～ 集団での話し合いはどうしてる?



- ・サークルタイムを活用している。
- ・小グループで活動している。「楽しかったことは?」など、自分の言葉で伝えやすい内容で取り組んでいる。
- ・内容によって人数を分けている。
- ・大人が入らず、子ども同士の中で進める。今日の当番が進める園もあった。
- ・話し合った内容は子どもから発表し、「それはどうなの?」など、大人が聞くことがある時は、更に話し合う。

<田中先生より講評>

- ・サークルタイムの形になれたことで、話し合いが持てていると思うことが多い。「サークルタイム」という形にとらわれないようにする。
- ・サークルタイムの人数が多い時には、小さいグループでの話し合いが発言もしやすく、思いを聞けるので良い。好きなことや得意なことを話題にすると、発言しやすい。座って聞きたくなる話ができているかが重要である。
- ・話し合いの中で、友達の言葉を聞いて「あっ、そうか」と気付く大事な瞬間もある。そこから会話のやり取りが続く「横の話し合い」につながり、仲間が聴き合う関係づくりができていく。

研修生の報告書より

☆サークルタイムでは、保育者と子どものやり取りになりがちだが、本来は子どもと子どもの横の会話が理想であるという話を聞いて、自分のサークルタイムの進め方を見直す機会になった。また、サークルタイムでのホワイトボードの使用は、保育者と子どものやり取りになりやすいことにも気づくことができた。言葉には子どもの気持ちが表れているので、好ましくない言葉に対して、正しい言葉に直すのではなく、「どういう気持ちなのかな?」と考えたり、「私にも教えて」ということを伝えたりして子どもの気持ちを受け止めることが大切であることを学んだ。

☆保育中のビデオを見て、子どもたちが引っかかってしまった紙飛行機を取るために、一人一人が紙飛行機を飛ばしていたり、「こうすれば取れるかな?」と考えて実践したりしている姿が面白いと感じた。保育者が子どもたちに答えを示すのは簡単だが、子どもたちが試行錯誤している様子を保育者が見守り続けることによって、子どもたちが自分たちで考え抜く力が発達すると、ビデオを見ながら感じる事が出来た。